

表現するという作業

スペースベン主宰 田中 勉

昨年11月末から始めた一人芝居二本立て公演も、すでに3ヶ月を迎えた。私と安達良春氏とで、それぞれ一人芝居をつくり上げ、二本立てで公演を続けている。

もともと、一人芝居といいながら、1ヶ月同じ番組のバージョンを少しずつ変えながら6回から8回上演しているため、時として突然二人芝居が発生したりするのであるが……。それもまた面白い。

これまでいろいろな感想をいただいた。応援メッセージも数多くいただいているが、ここでは敢えて厳しいご意見を取り上げ、この場をお借りして、以下に少しQ&A的に掲載してみたい。

○テーマが重い。
↓金曜日という週末公演なのだから、来週も元気に頑張ろうという、元気をくれる芝居づくりをして！

苦しみ、周りからも叩かれ、挫折してきた人を、これまでも数多く見てきたのは事実である。

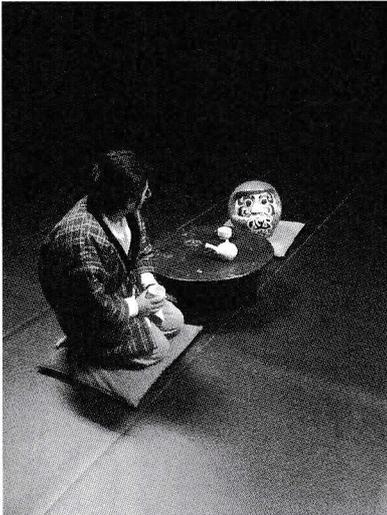
↓その通りかもしれない。ただ、私達がやっている作業は商業演劇でもなければ、映画でもなく、エンターテインメント性を求めたものでもない。生の私達が今生きている世界のリアリティーの表現であり、最良の劇団にしてほしくて上演を続けている訳ではない。ちなみに、軽いテーマの芝居も数多く上演しているのがあるが、往々にして最初に見たものが重いテーマだった場合、リピート率は低いことは否めない。

○あざといづくり方だ
↓変な言い方であるが、これは褒め言葉と受け止めさせていたきたい。何故なら、今の世の中で良くも悪くも演劇という手段を用いて、世の中を切ってみる時、いろいろな作品を送り出すには、あざといとくなくては続けてこれなかつたからである。純粹さ故に表現に

いずれにしても、小難しい話をするつもりはない。FANSでは、優れた作品だけを送り出していると言うつもりも毛頭ない。他との違いを訴えたり、違った表現活動をしている方の批判もするつもりもない。故に、その反対の批判も受けるいわれもない。表現とは、政治とは違うのだから。

○状況設定が分からない
↓言い訳をするつもりはない。感じていただいた通りであろう。しかし、演劇とは、表現とは、観客への説明だろうか？「内容が分からなかった」と感想を書いていただいた事を批判するつもりは言っても無くないが、「状況設定が分からない」というご意見にはひっかかりを感じるの否めない。しかし、同じ作品を観た方の感想で、賛否両論が出てくるのは当然であり、そのこと自体はとも興味深い。

いろいろな表現がある中で、金曜日夜7時30分からと、土曜日昼2時からの月8回程度、リアリティーの表現を求め、時代に何かを提起する一人芝居が、二本立てで、スペースベンで上演され続けていることは事実なのである。



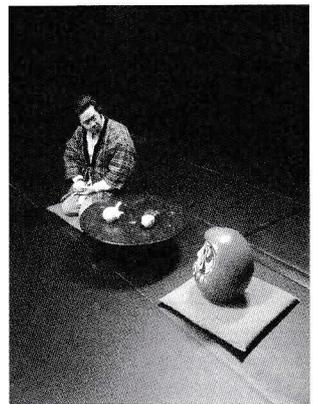
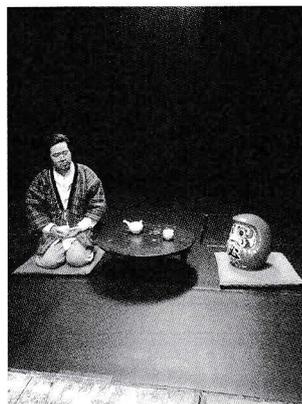
演劇空間 スペースベン

八戸市柏崎1-11-8
☎ 0178-43-9876
FAX 050-3588-8350
☎ 080-6025-0990
HP <http://spaceben.com/>
Eメール owner@spaceben.com
※特別番組以外全て午後7時30分～、料金/一般400円 高校生以下100円(当日100円増)
※チケットはスペースベンにて販売。スペースベンの上演内容は、ホームページまたはメールマガジンでご確認ください。

Friday Amusement Negative Shop

○演劇2本立て公演
3月7日(金)・8日(土)(735回)
14日(金)・15日(土)(736回)
21日(金)・22日(土)(737回)
28日(金)・29日(土)(738回)
※金曜日19:30開演。土曜日14:00開演。
開場はそれぞれ30分前。

「待ちながら」
脚本:安達良春
出演:白戸ハルヒ・安達良春
※3/7と3/21は安達良春一人バージョン
「こたえ」
脚本:沼沢豊起
出演:田中勉



3月号好評発売中!

●今月のテーマエッセイ「母校」

湊中・学友への鎮魂……………山田 実
おばあちゃん学校……………二本柳奈央子
友達こそ……………小泉 亮
遠い日のメッセージ……………熊谷実香子
母校は幻の中に……………島守光雄
菜種刈り……………森田 啓子

八戸の月刊誌
うみねこ
3月号 2008 511号
Hachinohe Monthly LUMINEKO

●今月のインタビュー

合同酒類株式会社フードサービス事業部八戸事業所長
兼シャトーガミヤディレクター
やまもと やすひこ

山本泰彦さん(62歳)に聞く

頭がいいが **読物満載**

毎月ご愛読ありがとうございます

発行所/うみねこ出版社
八戸市六日町10 いわとくパルコ3F
TEL・FAX 0178-44-6636